JAFXボーツWEB

2019年2019年JAF東日本ラリー選手権第4戦 JMRC関東ラリーシリーズ 群馬ラリーシリーズ第1戦 TRD RALLY CUP by JBL 2019 ネコステ山岳ラリー2019 [JAF公認No.2019-1104]

開催日:2019年4月20~21日 開催場所:群馬、埼玉 格式:国内 主催:NECOSTE [クラブ登録No.加盟11037]、MOSCO [団体登録No.加盟10003]

レポート/若槻幸治郎 フォト/山本佳吾、成田友也



の暖かい日を浴びる晴天となった4 月20日、平成最後となるJAF東 日本ラリー選手権第4戦が、群馬 シリーズ開幕戦と併催のワンデーラリーとして 開催された。土曜日のワンデー開催となったの は、翌日に全国的な選挙投票日が重なったこと に配慮した格好だ。

スタート場所はこれまでのネコステラリーでも使用してきた神流川河川敷にある「こいこいあいランド」。以前は埼玉県でのSSも実施されて注目されたこのラリーだが、諸事情により今回は群馬県内のみで勝負することとなった。

参加台数は61台。ほとんどのエントラントは群馬シリーズを追うクルーのようだったが、東日本チャンピオンを虎視眈々と狙うクルーもいる。今回はチャレンジクラスのほかにTRDラリーカップが併催されたのも、台数増加に拍車をかけたのかもしれない。

ラリーは1レグ2セクション制。SSは3本の 林道を使用した。1セクションで6.47Km、 9.19Km、12.29Kmの3本を2セクションで 2ループするトータル55.9Kmのオール舗装で 争われた。

全日本戦と同じようにクラス名が変更された 東日本選手権では、2リッター 4WDターボマシンが参戦するクラスはBC2クラスとなった。 群馬シリーズCクラスと併催されたBC2&Cクラスでは18台がエントリー。

SS1ではなんとランサー・エボ4という旧型マシンで参戦してきた96群馬Bチャンプ、97関東Bチャンプのベテラン宇野学/原田直人組が「あくまでラリーを楽しみたい」と言いながらもベストタイムをマーク。これを「今年は東日本チャンプを狙いたい」と語る全日本ドラ

イバー上原利宏/佐瀬石野組が2秒差で追いかける展開でスタート。

「勝つつもりで走った」と気合の入る上原選手は、その言葉通り、セクション1でベストタイムは1本ながら宇野選手に5.5秒差をつけるトップで折り返す。セクション2に入ると上原組と宇野組は、し烈なシーソーゲームを展開するものの、最終的には宇野組が上原組に4秒差をつけ優勝した。宇野選手は「コドラの原田さんが吐きながら頑張ってくれたお陰です。今年は地区戦じゃなくて群馬戦を楽しんで追います」とチャンピオンにはこだわらない姿勢を見せた。

そして22台と全国的に見ても最近のラリーでは破格の参加台数を集めたBC4&Aクラス。 やはり車両コストの低さが人気の秘密なのだろうか。基本的には 1.5ℓ までなのだが、RPN車

TRD Rally Cup / 1.Cup2クラスは女性コンビの毛受広子/赤木弥生組が優勝。2. Cup1クラスではカルロス中村/山本明生組が優勝した。3. Cup2で2位入賞の塚本奈々美/寺田昌弘組。4. Cup1で2位入賞の中溝悠太/能仁顕悟組。





























東日本選手権/5. BC4&Aクラスは、Section1で大量リー ドを築いた細谷裕一/東駿吾組が優勝。6. BC3&Bクラスは 新潟のトップダートラドライバー山田一雄/大内洋組が舗装 で速さを見せて優勝7. CHクラスは全日本のテストを兼ねて 参戦の石川昌平/竹薮英樹組が優勝。8. BC4&Aで2位入 賞の藤田勝正/長田尚士組。9 BC3&Bで2位入賞の海老 原孝敬/蔭山恵組。10. BC2&Cクラスで2位入賞の上原利 宏/佐瀬拓野組。11. BC2&C田島正広/高草木龍宏組は4 位入賞。12. BC3&B4位入賞のフミッパ/もそ組。13. BC4&A 鈴木歩/松浦一也組は4位入賞。14. BC2&C嶋村徳之/宮 城孝仁組は5位入賞。15. BC4&A羽賀幸雄/鷹野啓司組は 5位入賞。16. BC2&C6位入賞の栗原謙一/福田智治組。17. BC3&B5位入賞の山口雄資/止境一夫組。18. BC3&B6位 入賞の木村謙治/林敏雄組。19. BC4&A6位入賞の佐藤慧 /福村幸則組。**20.**村山俊晴/河西晴雄組はBC4&A 3位入 賞。21. 横澤進治/丸山剛史組はBC3&B 3位入賞。22. 庄司 睦/貴志祐介組はBC2&C 3位入賞。







両に限っては1.6 ℓ までOK というクラスだ。

そんな規定も相まって、マシンもヴィッツを はじめスイフト、デミオ、シティ、アルト、果 てはRX-8やNDロードスターまで参戦してく る異種格闘技戦となった。そんなクラスで SS1からベストタイムを叩き出したのはチー ム・メープルから参戦してきた細谷裕一/東駿 吾組のNCP13ヴィッツ。

細谷選手は「グラベル仕様だったんですけど テクでカバーしました(笑)。でも何も考えずに 走ったのが良かったんでしょう」と苦笑するも のの、最後の2SSはペースダウンする余裕も 見せる。結局、群馬戦のディフェンディングチ ャンプで「今回はセッティングを変えたら合わ せられなかったんですが、セクション2でセッ トを変えたら良くなりました|と振り返った藤 田勝正/長田尚士組に30秒以上の大差をつけ 優勝。幸先のいい1勝を挙げた。

10台が参加してきたBC3&Bクラスでは SS1をMR-Sで孤軍奮闘している横澤進治/ 丸山剛史がベストタイムでクリアするも、「実

はレキでジャンプしたらショックが抜けて しまって」と、その後はズルズルと後退し

TRD Rally Cup / 23. Cup2 入賞の皆さん。24. Cup1 入 賞の皆さん。東日本選手権/25.BC2&Cクラス入賞の 皆さん。26. BC3&Bクラス入賞の皆さん。27.BC4&Aク ラス入賞の皆さん

群馬名物のジャンピングスポットで14mもの 大ジャンプを披露し、ジャンプ賞を獲得した新 潟の元ダートトライアラー山田一雄/大内洋組 のZC33Sスイフトが、トータル4本のベスト タイムをマークして制した。 「新潟なのでオフは雪でほとんど練習できなか

て、3位にとどまる。その一方、トップ争いは

ったんですが、無理せず走ったのが良かったん でしょう」と山田選手。千葉SMASH軍団の海 老原孝敬/蔭山恵組が「去年は良くなかったの でメダルが獲れて嬉しいです」と山田組には20 秒以上離されたものの、2位を獲得した。チャ レンジクラスは3台のみのエントリーだったが 「練習で参加しました」と語る現役全日本ドライ バーの石川昌平/竹藪英樹組が2位以下に6分 近い差をつけるブッちぎりの走りで優勝した。

併催されたTRDカップでは86/BRZのカ ップ2クラスではカルロス中村/山本明生組が ベストタイム1本ながら安定したラリー運びで 優勝。カップ1クラスでは男性クルーを押しの けて毛受広子/赤木弥生組が優勝を飾った。



